

## 令和6年度 E I K Oデジタル・クリエイティブ高等学校 自己評価表

目指す学校像	「知の創造者たれ」の教育理念に基づき、「Society5.0」近未来型スクール構想をコンセプトに、デジタル（デジタル人材の育成）、クリエイティブ（新しい価値創造）、ダイバーシティ（多様性の尊重）、インクルーシブ（共生社会の形成）、SDGs（持続可能な社会の実現）をキーワードに、「主体的に学び、自由に発想し、新しい価値を創造する人材の育成」を目指す。			
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況	
開校から1年が過ぎ、学校訪問や個別相談会等の効果が徐々に現れ始めた。令和6年度期初に迎えた入学生は、水戸本校28名、浦和校25名、合計53名であった。 本年度の課題は、授業・学校行事の充実と、新入生・転入生・編入生の獲得、卒業生の進路実現を図ることである。	基本的生活習慣の確立	・挨拶、礼儀、言葉遣いを身につけた人格形成を目指す。 ・公共の場でマナーをわきまえた行動ができるよう指導する。	A	
	安心して安全な学習環境の整備	・「いじめ、暴力は絶対に許さない」との共通認識のもと、教職員、生徒、保護者が一丸となってその防止に取り組む。 ・いじめや暴力を未然防止・早期発見し、法に則った対応をする。	A	
	学習習慣の確立と進路目標の実現	・学習や授業に正しい姿勢で臨ませる。 ・高い進路目標を立て、その実現のために継続して努力させる。	A	
	特別活動の充実	・諸行事を通して、他人を思いやり、協力し合う心を育てる。	A	
進路目標の実現	・進路決定率100%を達成し、生徒・保護者の満足度を上げる。	A		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教 務	・円滑な業務運営を実現する。	・それぞれの教職員が多様な業務を遂行できるよう、日頃から業務内容・業務手順の共有化を図る。 ・メールや各種IDの共有化、諸表簿の整理整頓を進め、教職員の自由な情報アクセスを可能にする。 ・校務分掌や各種行事の役割分担などで適材適所を進める。	A	引き続きオープンな校務運営を心がけたい。
	・教職員の資質向上に努める。	・校内研修会を開催し、通信制高校に特有の課題とその対処について理解を深める。 ・校外の研修会等へ教職員を派遣し、指導力向上を図る。	A	
	・業務の効率化を図り、教職員の心身の健康を守る。	・校内ネットワークを整備し、ペーパーレス化や教職員間の情報共有を促進する。 ・クラウドを活用し、校舎間（水戸・浦和）の情報共有を促進する。 ・教職員全員で効率的に業務を遂行できるよう、行事等の実施要項の作成・配付を早めにおこなう。	A A	
	・個人情報への配慮を高める。	・個人名が記載された書類はシュレッダーを使用して処分する。 ・パンフレット等へ生徒氏名や写真を掲載するにあたり、事前に保護者に確認し承諾書をいただく。	A	
	・保護者との連帯を強化する。	・学習状況や生活状況について保護者との連絡を密に取り、信頼関係を醸成する。 ・学年通信を毎月発行し、学校での学習状況、生活状況、学校行事などについて保護者に報告する。 ・三者面談を年2回実施し、保護者との情報交換をおこなう。	A	
学習指導	・単位認定に向けて手厚い学習指導を施す。	・レポート課題の添削時に、さらなる学習につながるよう、個に応じた適切なコメントを付与する。 ・期限までにレポートが提出されない生徒に対して、提出催促のメール配信をおこなう。 ・スクーリング実施にあたっては、レポート学習での課題を踏まえた適切な学習課題を準備し、学習の深化を図る。 ・単位認定試験実施にあたっては、学習課題を的確に捉えた適切な試験問題を準備する。	A	生徒全員が履修単位すべてを修得することができた。今後も生徒一人ひとりの理解状況に応じて課題を提供するとともに、学習方法・取組姿勢について手厚いサポートを実施していきたい。
	・学習環境の充実を図る。	・スタディールームを設置し、静寂の中で自学自習できる環境を用意する。 ・生徒が教科担当教員に自由に質問できる体制を整え、個別指導の充実を図る。	A	
生徒指導	・安全で安心した学校生活を送れる環境づくりに努める。	・生徒間の問題に対しては、教職員が適切な指導をおこない、話し合いで問題解決する習慣を身につけさせる。 ・適宜校内巡回をおこない、不審者の侵入を未然に防ぐ。 ・相談窓口を設置し、生徒および保護者の心のケアを充実させる。 ・施設設備の点検をおこない、不備があれば迅速に修繕する。	A	一貫した指導を徹底させ、マナー向上を推進する。 安全面については細部への配慮を怠らず、気づいたことから確実に処理する姿勢を継続する。
	・いじめや暴力を許さない雰囲気醸成する。	・年に2回、いじめアンケートを実施するほか、日頃から積極的に生徒に話しかけることで、SOSを出しやすき雰囲気醸成し、いじめの未然防止・早期発見に努める。 ・生徒や保護者からの相談に真摯に向き合う。 ・いじめや暴力が発生した場合には、法令や本校のいじめ防止基本方針に則って適切に対応し、早期解決を図る。	A A	
	・品位とマナーを身につけた人格形成を目指す。	・学校生活を通して、報告・連絡・相談を意識させ、習慣化させる。 ・社会人として求められる規範意識やマナーを身につけさせる。	A	
	・インターネット、携帯電話の正しい使い方を身につけさせる。	・各種アカウントの管理を徹底させ、トラブルの未然防止に努める。 ・顔写真や個人情報などのSNS投稿に注意を呼びかけ、犯罪に巻き込まれないための方法を習得させる。	A	
特別活動	・集団活動を通して様々な力を身につける。	・希望者を対象に宿泊学習を実施し、協力して課題の解決を図る力を育む。 ・希望者を対象に修学旅行を実施し、幅広い教養を身につけさせる。 ・スポーツフェスティバルや文化祭を実施し、団結力を高め、自己表現する力を伸ばし、目標を達成する姿勢を培うとともに、仲間を応援する優しさを育む。	A	水戸本校と浦和校の生徒同士の交流促進を図り、切磋琢磨しながらお互いに協力しあう姿勢を育てていきたい。
	・質の高い学問・芸術に触れさせる。	・校外学習で博物館や美術館を訪問し、本物に触れる機会を設ける。	A	
	・他人を思いやり、協力し合う心を育む。	・ボランティア活動を実施し、地域社会に貢献する心を育む。 ・毎月ホームルームを開催し、講話や様々な取り組みを通して、豊かな人間性の育成を図る。	A	
	・心身ともに健康的な生活習慣の確立に努める。	・保健だよりを毎月発行し、健康増進のために有益な情報を発信する。 ・内科、歯科、耳鼻科の各検診を実施し、生徒の健康状況を把握するとともに、健康増進のための適切なアドバイスを提供する。	A	
保健厚生	・学習環境の整備に努める。	・毎朝校舎内外の清掃を実施し、清潔感ある学習環境を維持する。 ・教室内の空気・照度調査、飲料水の水質検査を実施する。	A	健康維持・健康増進への効果的な取り組みを継続したい。
	・各種感染症の予防に努める。	・日々の清掃や消毒液の配置など、感染症予防のための環境整備を進める。 ・手洗いうがいの励行、手指消毒の徹底、マスク着用などの啓発活動をおこなう。 ・感染者または濃厚接触者が発生した際の対応について整備する。	A	
進路指導	・早期から卒業後の進路についての意識づけをおこなう。	・二者面談、三者面談を実施し、生徒および保護者の進路希望を適切に把握する。 ・進路希望アンケートを実施し、個々に応じたアドバイスを提供する。 ・キャリアデザイン講座を年6回開催し、大学、専門学校、就職それぞれの進路に関するスケジュールや手続きについての理解を深める。	A	3年次相当生徒の全員が卒業を果たした。今後も全員の卒業と進路希望の実現に向けてサポートを充実させていきたい。
	・卒業時の進路決定率を高める。	・大学入試の方法、日程についての理解を促進する。 ・模擬試験を活用し、適切な進路指導をおこなう。 ・大学や専門学校のオープンキャンパスについての告知をおこない、主体的な情報収集を促す。 ・求人票の掲示をおこない、業種や企業の比較検討を通して、主体的に進路選択をおこなう素地を作る。 ・エントリーシートや書き方や面接の受け方について個別指導を実施し、進路決定につなげる。	A	
生徒募集	・本校の教育方針・教育内容等について周知し、入学者数を増加させる。	・学校紹介パンフレット、リーフレットを作成し、本校の教育方針、教育内容等について広く知っていただく。 ・個別相談会、eスポーツ体験会を開催し、多数の来校を促す。 ・ホームページやinstagramでの学校紹介を充実させる。 ・中学校と高校を訪問し、本校をPRするとともに、入学生の学習状況について情報交換する。	B B	内容・方法のさらなる充実を図りたい。
リベラルアーツコース	・各人の個性に応じた学習スタイルを確立する。	・リベラルアーツ講座を年12回開催し、多様な価値観に触れさせる。 ・特別な支援が必要な生徒に対して、学習支援計画を作成し、特別な配慮のもと、一人一人に応じた丁寧かつきめ細かな指導を実践する。	A A	一人一人に合った対応を心がけていきたい。
スーパーアドバンスコース	・ハイレベルな学習に取り組むとともに、大学入試に向けて十分な対策をおこなう。	・毎週水曜日にスーパーアドバンスゼミを開講し、大学入試に向けた情報収集や入試問題演習をおこなう。 ・模擬試験を活用し、学習の到達度を客観的に捉え、学習スタイルの振り返りをおこなう。	A A	生徒の適性に合わせ、総合型選抜や共通テスト、一般入試に対応できる力を育てたい。
eスポーツコース	・競技技術の向上を図るとともに、eスポーツ業界への理解を深める。	・専任講師および外部講師によるハイレベルな技術指導を提供する。 ・各種eスポーツ大会に参加し、好成績を収める。 ・イベント企画、動画編集、ゲーム実況などの授業を通して、周辺技術の習得を図る。	A A	引き続き専門性の高い指導をおこなってきたい。

※ 評価基準

A：十分達成できている

B：達成できている

C：概ね達成できている

D：不十分である

E：できていない